

自宅隣にギャラリー開設

高田馬場の78歳主婦・井坂さん

地域交流の場に

空き店舗を改装、低料金



作品の前で話す井坂さん＝新宿区で

みんなが気軽に集まれる文化的でアットホームな空間をつくり出したい。新宿区高田馬場三に住む七十八歳の主婦井坂君代さんが一念発起し、二十三日、自宅隣にギャラリー「そらま」を開設する。「一年を取った人は、心を開くことが苦手。ここが地域の交流の拠点になれば」と、低料金で自由に使えるように工夫しており、車いすでも入れる。オープンのお披露目は自作の写真展。「学生さんから年配の方まで、写真だけでなく絵画でも現代美術でも、自由に使ってほしい」と、利用を呼び掛けている。

きょうオープン 幕開きは自身の写真個展

井坂さんの趣味は写真。

ところが展覧会を開こうと思っても、銀座などの一等

地では高すぎて手が出ない

上、予約がいっぱいで一年半から二年も待たなければ

ならないことも。公共の施設も小回りが利かない場所

が多く、「これでは寿命の

ほうが先に来てしまっ

と、自分で手軽に使えるキ

思いついた。

自宅隣で貸し出していた

店舗が昨年夏に閉店した

後、不況のせいかわり手が

立つが「うちまでぞつなっ
たら寂しい」。終戦直後に
高田馬場に引越して五十
年、地域に貢献することも
しなかった。夫の広巳さん
（ミヤ）や息子夫婦に「ギャラ
リーを開きたい」と相談し

「使用料は電気代程度な
のですけれど、もつからな
くていい。あの世にお金を
持っているわけじゃない
ですわね」と、井坂さんは
さわやかに笑って話してい
た。問い合わせはギャラ
リー「そらま」電(33367)
8066へ。

たところ「いいね」とすべ
に話がまとまり、ギャラリ
ー用に改装した。
二十三日六月四日は、自
分の個展を開く。実母の介
護を終えた二十年前に写真
を始め、足の骨折による二
度の手術を乗り越えたいま
も週に三回は撮影のために
出歩いている。今回は、旅
先の子どもや自分の孫、動
物を写した三十二枚を展示
する。

ギャラリーの名前は「空
間」と、空に向かって実る
「ソラマメ」をかけてい
る。二間続きで、面積は約
三十八平方尺。使用料は一
日一万円で、写真の額も貸
し出す。展示会用の貸し出
しは午後から。「午前中
には、ヨガや英会話、コーラ
スなどの教室や会議室とし
て使えるようにして、夜は
ライブを開きたい。近所迷
惑にならないならどんなこ
とでも」と構想は膨らむ。

ま

屋形船